

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「保護者に子どもの気になる様子をどう伝えるか」

能代市では毎年4月下旬、特別支援体制の整備、充実を目的に、福祉、療育、教育関係者が一堂に会し、「特別支援教育連絡協議会」を開催しています。今回、我が子の発達特性に気付いていない、気付いているが認めたくないと思っている保護者への対応が話題になりました。今号では、保護者に子どもの様子をどのように伝えるかについてを考えてみます。

1 子どもの発達特性に気付いていない保護者への対応

- ・伝える意図が保護者と共有されていないとボタンのかけ違いが生じるため、保護者に伝える必然性があるかどうかを、校（園）内委員会で共通理解を図った上で保護者面談を実施する。
- ・面談前に、①参加メンバー、②気になる様子の伝え方、③支援目標・内容を確認する。
 - ①管理職、コーディネーター、主任、担任等。
 - ②気になる様子を日々の記録、テストの結果や作品等を基に、具体的に伝えたり、保育・授業参観を利用して実際の様子を見てもらったりする。家庭での様子や関わり方を尋ねて困り感を共有する。
 - ③「個別の指導計画」を作成し、支援目標・内容を伝え、期間を設けて評価することや変容が見られない場合は、関係機関と連携することを提案する。

保護者が我が子の気になる様子に気付く前に、他者から発達特性を指摘されると診断時と同じショックを受けると言われています。保護者と気まずいとも言える信頼関係を構築しながら、はじめに時間をかけ、外部の関係機関とつながることを考えます。

2 関係機関につなげるための手立て

- ・困っているのは、子どもであることを前提に話す。
- ・効果的な支援を行うために、関係機関と相談をしたい、専門家の話を参考にしたいと、園や学校も動くこと、保護者と一緒に手立てを考えたいことを伝える。
- ・「念のために」という一言を忘れない。
- ・保護者の同意を得て関係機関に同行して集団での様子を伝える。
- ・保護者から「もう少し様子を見たい」という申し出があれば、今は認めたくない気持ちが強いと考えて無理に勧めない。

保護者の理解が得られない場合でも、子どもの様子を伝えることは必要です。それが園から小学校に、小学校から中学校に進学したとき、「そう言えば以前も同じことを言われた」という気付きになり、我が子の特性を受け入れる心の準備ができます。



とれたて直送便



【スランプから脱出できた理由】

北海道日本ハムファイターズの新庄剛志監督が選手時代にスランプに陥ったとき、コーチに聞いても原因が分からなかった。そこで、グラウンド整備員に「僕が打てなくなった原因を教えてほしい」と尋ねたら、「最近、背番号5番が2にしか見えない」と言われた。ボールをよく見ようとして背中が丸まっていたことに気付いた新庄選手は、翌日姿勢に気を付けて打席に入ったところ、2打席連続ホームランを打った。指導に困ったとき、一人で悩みを抱え込まず、いろいろな人の意見を積極的に聞くことで、解決の糸口が見付かるかもしれない。